

2003/07/14(於 札幌市民会館)

北海道日中関係学会 第18回東アジア勉強会

アメリカから見た東アジアそして中国

——米国政府招聘研修の成果報告を中心に——

渡部 淳(北海道大学大学院国際広報メディア研究科)

makotow@ilcs.hokudai.ac.jp 無断引用・転載はご遠慮下さい

1. はじめに ～ 国務省主催国際人材交流プログラム IVP2003について ～

私が参加した研修プログラム:

- ・ テーマ “US-Asia-Pacific Security---Addressing the Challenge of a Changing World”
(米国とアジア太平洋の安全保障——変化する世界からの挑戦への取り組みへ向けて)

- ・ 参加時期

2003年2月1日～3月1日 9. 11、北朝鮮核問題の後、イラク開戦の前の一ヶ月間

- ・ 研修地:

ワシントン DC、ニューヨーク、フェニックス(アリゾナ州)、シアトル、ホノルル(ハワイ)

- ・ 研修先:

国務省・国防総省(ペンタゴン)などの政府機関

国防大学、ウェストポイント軍事大学、ルーク空軍基地、太平洋司令部などの安全保障の現場
シンクタンク、大学の研究機関、民間の研究所、NPO、NGO などの民間政策分析・提言機関

2. 外交政策形成に関わる人々 ～幅広い人材交流とシンクタンクの役割～

- ・ 政策決定のいくつかのレベル:

①政治(立法)レベル: 政権(大統領+高級官僚)、議会(多数派政党)、議員、CRS、世論

②官僚(行政)レベル: 国務省、国防総省、国土安全保障省、商務省、通商、運輸、農務...

③研究(民間)レベル: シンクタンク、大学の研究所、民間企業の情報調査部

- ・ 日米の外交分野での人材交流の違い:

日本の官僚は政権交代は関係ない⇔米国の高級官僚は政権(大統領+政党)が変わると総退陣したがって、シンクタンクや研究機関は辞めざるをえない高級官僚の受け皿にもなっていて、政権が変わればまた官僚として復帰したりするので、外交政策の分野では米国の人材交流は激しい。

- ・ シンクタンクの3分類:

① Consulting (政府御用達)型: ブルッキングス研究所、ランド研究所、戦略国際問題研究所(CSIS: 民主党寄り)、外交評議会(Council of Foreign Relations)・・・など

② Advocating (プロパガンダ)型: ヘリテッジ・ファウンデーション、アメリカ新世紀委員会(共に共和党寄り cf. ラムズフェルド、ウォルフピッツ)、CATO(民主党寄り)・・・など(cf. ネオ・コン)

③ Research (研究)型: ハドソン研究所(cf. 日高レポート)、スティムソン・センター・・・など

3. 研修先の東アジア(≡中国)に対する見解

- ・ 特徴:

過去10数年間の世界情勢の変化、米国の政権交代、議会の多数党の交代、世論の変化にもかかわらず、官僚レベルでの対中外交方針はほぼ一貫している。

- ・ いくつかのメルクマール

1989年 天安門事件 それ以後の最恵国待遇

2000年 米国による中国の WTO 加盟の承認

2001年4月 EP-3 偵察機衝突事故 とその対応

2001年9月 9. 11米国同時多発テロ と米中関係の優先順位の相対的低下

2001年12月 中国 WTO 加盟発効 国際社会への「組み入れ」

- ・ 対中政策、議会 vs 大統領

ブッシュ父 穏健路線、クリントン 「建設的・戦略的パートナーシップに向けて努力する」

ブッシュ子 「競争相手」→9. 11→反テロの戦略的パートナー？

- ・ 米中関係、米露関係、「これまでにこんなに良かったことがあるだろうか？」

4. 中国外交の特徴といくつかの留保点、そして北朝鮮、台湾問題

- ・ ここ10年来の中国外交の諸特徴

Confidence（自信）**Matured**（成熟した）そして(超)長期的展望と戦略

↑政治経済的台頭と安定した高度成長。

- ・ 啼くまで待とう台湾問題？

中国外交の政治的スパンは5年や10年というものではなく、50年～100年という長いものである
ので、台湾問題そのほかの地域問題へのこのところの沈黙は、基本政策の変更ではない。

- ・ 北朝鮮 ～無関係から現実的脅威へ～

金正日体制崩壊に伴って予想される、東北部への大量の難民流入→北朝鮮の現状維持を望む
核の脅威の具体化と現実化→多国間枠組みへの参入(但し、どの程度までか未知数)

- ・ イラク戦争への対応

沈黙は、中国の米国への中立な≡同調を示しているとも解される。←国際的制度への組み入れ

5. 進展する米中関係、変わらない日米同盟、そして日中関係の現状と課題

- ・ 米軍の超長期的東アジアからの撤退と、日中の地域的安全保障枠組みにおける役割
- ・ 進展する非国家・準国家レベルのネットワーク化と、迷走する日本の政治・世論・マスコミ
- ・ 東アジア国際関係における日中関係の意義と、今後の(おそらく)日本側の課題
- ・ 脅威論を越え協調的枠組み作りへ「地域の、地域による、地域のための 協力」